

環境部会 ヤマセミを見たよ

バードウォッチングと野草クッキング教室

生8 - 環 西阪 順三



野鳥の姿を双眼鏡で追う親子たち(西区押部谷町木見の裏山で)

こうべ環境未来館の本年度第2回エコスクール「バードウォッチングと野草クッキング教室～自然とふれあって、春を満喫しよう～」が5月12日(土)同館の周辺で行なわれました。

この日は汗ばむほどの暖かさで、親子54人が参加、グループ別の野鳥と自然観察会、里山、ピオトープの会や銀の匙の各グループ代表から探鳥のマナーや双眼鏡の使い方、近郊の野

草や木の芽の種類の見分け方などの説明を聞きました。グループごとに分かれて、近くの裏山まで出かけた親子たちは、双眼鏡を手に、野鳥を探していました。冬場と違って木々は若葉が生い茂っていて、鳥たちの鳴き声は聞こえるのですが、姿を見つけるのに一苦労です。そんな時、空高く飛ぶトンビやツバメの間を縫って、この付近では見る事は珍しいヤマセミが一瞬、美

しい姿を見せた。「あの鳥は何んというの」と野鳥クラブの先生たちが質問攻めにあっていました。

このあと親子たちは山からの帰りの道に生えているワラビ、山椒、オオバコ、芹、ヨモギを摘んでいました。里山の会の先生たちに毒草が混じっていないかチェックして頂いて、それぞれ自宅に持って帰りました。午後から昼食をとりながらお楽しみの野草の試食会です。スタッフが事前に用意した野草を、銀の匙の会員が腕によりをかけてワラビや柿の葉、タンポポを天ぷらやおひたしに調理して提供しました。みんな美味しそうにいただき、なかには家族にも食べさせると持ち帰る人も居ました。「こんな野草も食べられるなんて...」と、父兄たちも驚いていました。

最後に裏山で観察した16種類の鳥たちの生態についての解説を聞いたり、採取した野草の調理方法など詳しい説明がありました。なかにはメモを取る父兄もあり、有意義な1日でした。35歳の母親は「子どもたちに自然に親しみ、大切にすることを教えたい」と話していました。

燃料電池で動くカートに大喜び

地球を大切に環境教室 ～自分でつくるエネルギー～

こうべ環境未来館と大阪ガス、栗本鉄工所の共催で「地球を大切に環境教室～自分でエネルギーをつくってみよう～」が好天気6月16日(土)午前10時から同未来館で、熱心な親子54人が参加して開かれました。

私たちは多くのエネルギーを使って、さまざまな環境問題を引き起こしています。次代を担う子どもたちに地球を大切にするには何をしたらよいかを体験的に学び、身近な事から実践してもらおうと開かれました。

親子たちは6つのグループに別れ、それぞれ班ごとに環境クイズに取り組み「透明なファイルはどんな材料でつくられますか」「ジュースのアルミ缶をリサイクルすると何になるか」などの難問に挑戦していました。

栗本鉄工所の担当者から子どもたちにも解かりやすいエネルギーにつ

いての話を聞いたあと、ペットボトルとコルクを使って思い思いの羽根車をつくりました。小型モーターに作成した羽根車を取り付けて、扇風機の風の力で回転させてどれだけ発電できるかを実験しましたが、200アンペアを発電する作品もありました。

午後からは大阪ガスの天然ガス車とディーゼル車の排気ガスの比較実験したり、お楽しみの栗本鉄工所の燃料電池で動く電動カートや車椅子に試乗して大喜びしていました。

今回初めての試みで、地球にやさしいラーメンづくりをしました。班ごとに違う鍋を選んで、どの鍋が熱の伝わりが早

いか、そして食べたあとのごみの量を競いました。鍋についてはアルミ、ステンレス、ガラスの順に熱の伝わりがよかった。またごみについてはある班は、プラスチックの食器は洗って使えると持ち帰ったので、他の班の半分以下の量でした。

大阪ガスの担当者から「ごみは人間の考え方一つで多くなったり、少なくなったりします。ごみを捨てる前によく考えましょう」と講評していました。



燃料電池の電動カートに試乗して大喜びの子どもたち